

## 分娩誘導法について

### ★どんな時に行うの？

- ・妊娠偶発症・合併症
- ・妊娠高血圧症候群
- ・前期破水
- ・微弱陣痛
- ・胎児予備能低下
- ・胎児発育遅延
- ・予定日超過
- ・その他



### ★どんなふうに行うの？

#### ①子宮頸管拡張

ラミナリア  
ダイランパン …………… 棒状のラミナリアまたはダイランパンを子宮頸管に挿入し、数時間で膨らむことによって子宮頸管が拡張します。通常 夕方に挿入し、翌朝に抜きます。

メトロ …………… ゴム風船を子宮内に挿入し、それに 生理食塩水を注入することによって子宮容積が増加します。そのため子宮収縮とともに子宮頸管が広がってきます。



#### ②子宮収縮剤の点滴

専用の機械を使用して子宮収縮剤(プロスタルモンFまたはアトニン)をゆっくり点滴します。



一部の新聞、週刊誌などの報道でご存知と思いますが、不幸にして過強陣痛となり胎児循環不全となったり、子宮破裂を起こすことが知られています。ただ、不幸な結果を招いた症例の多くは胎児心拍数モニターで胎児が元気かどうか、陣痛が強すぎないかどうかを常に検査していないようです。

子宮収縮剤の内服や点滴、メトロの使用時には過強陣痛の起こる可能性があるため、常時、胎児心拍数モニターを装着していただきます。陣痛時に下腹部をさすることができず不自由とは思いますが、胎児の安全のためご協力ください。